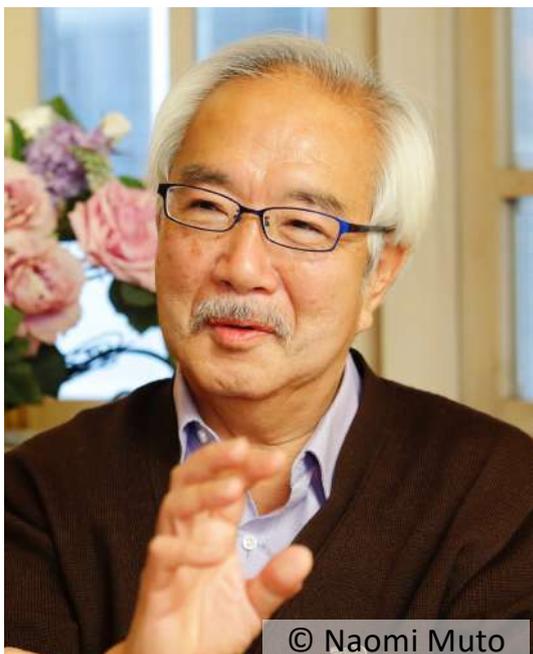


関西大学 外国語教育学会 特別シンポジウム

「気づき」と「目覚め」は
ことばの教育をどう変えるか



© Naomi Muto

大津由紀雄氏



大山万容氏



北野ゆき氏

日時

2022年

6月11日 土 13:00-16:30

(受付開始: 12:45~)

会場：ハイブリッド（関西大学千里山キャンパス、Zoom）

参加費：無料（会員）、1000円（非会員）

お申し込みは：<http://kufler-symposium2022.peatix.com>

申込受付：2022年4月25日（月）10:00

～ 2022年6月10日（金）17:00



お問い合わせ

関西大学外国語教育学会研究大会委員会

kandaigaikyou@gmail.com

プログラム

(講演や討議の時間は前後する可能性があります)

開会の辞 13:00～13:10

話題提供 13:10～15:10

13:10～13:45

「ことばへの気づき」は言語教育にとってどんな意味を持つのか
大津由紀雄氏 (関西大学客員教授、慶應義塾大学名誉教授)

「ことばへの気づき」について、つぎの視点からお話しします。ことばへの気づきは、① ことばの世界の楽しさを知り、その奥深さと怖さに気づくためのきっかけとなる、② 母語を効果的に操るための基盤となる、③ 外国語学習／教育の基盤となる。

13:50～14:25

ことばへの気づきと外国語教育:「言語への目覚め活動」と「統合的教授法」

大山万容氏 (大阪公立大学講師)

ことばへの気づきを育むことは、広い意味での言語・文化教育だけではなく、英語など、個別言語の習得にどう寄与するのでしょうか。これに答えるために、ことばへの気づきを教室で育むための複言語教育として、「言語への目覚め活動」と「統合的教授法」について紹介し、教室にどのように取り込めるかについて考えます。

14:30～15:05

ことばってこうやって考えてみたら、めっちゃ面白いなあ、先生
北野ゆき氏 (守口市立錦小学校教諭)

外国語や国語の授業でことばについて考え、話し合いを進めていくと「考えてみたら確かに不思議」と言い始めます。考えて、話し合っ、それを自分の言葉でまとめて、とやっていくと、ウンウン唸りながらも「難しい!でも面白い!」「もっとやりたい」「ことばって面白いなあ」と言うようになります。

全体討議 15:20～16:20

閉会の辞 16:20～16:30